

## 水産動植物の被害防止及び水質汚濁に係る農薬登録保留基準の設定を不要とする農薬について(天敵農薬)(案)

今般、既登録農薬について精査したところ、別紙1の天敵農薬については、その使用方法等から、当該農薬の成分物質等が河川等の水系に流出するおそれが極めて少ないと認められることから、水産基準及び水濁基準の設定を行う必要がない農薬として整理することとしたい。

### 1 河川等の水系に流出するおそれ

別紙1の天敵農薬については、「農薬の登録申請に係る試験成績について」(平成12年11月24日付け12農産第8147号農林水産省農産園芸局長通知)において「当該農薬の剤型、使用方法等からみて、当該農薬の成分物質等がその使用に係る農地に混入し、又は河川等の水系に流出するおそれがないと認められる場合」に該当することから、環境中予測濃度算定に関する試験成績の提出が免除されている。

### 2 水産動植物の被害防止及び水質汚濁に係る農薬登録保留基準設定の必要性

別紙1の天敵農薬は、すべて陸生の寄生性天敵(昆虫)又は捕食性天敵(昆虫・ダニ)であり、その生物学的性質及び生態から水中では生存できないため水系に流出する可能性は極めて低い。

このため、別紙1に掲げる天敵農薬については、水産動植物の被害防止及び水質汚濁に係る農薬登録保留基準値の設定を行う必要がない農薬として整理して良いと考えられる。

なお、今後、新たに天敵農薬が登録申請された場合には、水産動植物の被害防止及び水質汚濁に係る農薬登録保留基準の設定の必要性について検討することとする。

## 天敵農薬の概要

一般名	学名	分類		捕食性又は寄生性	用途	適用作物	水田適用
アリガタシマアザミウマ	<i>Franklinothrips vespiformis</i>	昆虫	アザミウマ目 <sup>ソウシ</sup> (総翅目)	捕食性	殺虫剤	野菜類(施設栽培)	無
イサエアヒメコバチ	<i>Diglypus isaes</i>	昆虫	ハチ目(膜翅目)	寄生性	殺虫剤	野菜類(施設栽培)	無
オンシツツヤコバチ	<i>Encarsia formosa</i>	昆虫	ハチ目(膜翅目)	寄生性	殺虫剤	野菜類(施設栽培)、ホインセチア(施設栽培)	無
コレマンアブラバチ	<i>Aphidius colemani</i>	昆虫	ハチ目(膜翅目)	寄生性	殺虫剤	野菜類(施設栽培)	無
サバクツヤコバチ	<i>Eretmocerus californicus</i>	昆虫	ハチ目(膜翅目)	寄生性	殺虫剤	野菜類(施設栽培)	無
ショウカタマバエ	<i>Aphidoletes aphidimyza</i>	昆虫	ハエ目(双翅目)	捕食性	殺虫剤	野菜類(施設栽培)	無
タイリクヒメハナカメムシ	<i>Orius imilis</i>	昆虫	カメムシ目(半翅目)	捕食性	殺虫剤	野菜類(施設栽培)	無
チチュウカイツヤコバチ	<i>Eretmocerus mundus</i>	昆虫	ハチ目(膜翅目)	寄生性	殺虫剤	野菜類(施設栽培)	無
チャバラアブラコバチ	<i>Aphelinus asychis</i>	昆虫	ハチ目(膜翅目)	寄生性	殺虫剤	野菜類(施設栽培)	無
ナミテントウ	<i>Harmonia axyridis</i>	昆虫	コウチュウ目 <sup>シヨウシ</sup> (鞘翅目)	捕食性	殺虫剤	野菜類(施設栽培)	無
ナミヒメハナカメムシ	<i>Orius sauteri</i>	昆虫	カメムシ目(半翅目)	捕食性	殺虫剤	ビーマン(施設栽培)	無
ハモグリコマコバチ	<i>Dacnusa sibirica</i>	昆虫	ハチ目(膜翅目)	寄生性	殺虫剤	トマト(施設栽培)、ミニトマト(施設栽培)	無
ハモグリミドリヒメコバチ	<i>Neochrysocharis formosa</i>	昆虫	ハチ目(膜翅目)	寄生性	殺虫剤	野菜類(施設栽培)	無
ヤマトクサカゲロウ	<i>Chrysoperla carnea</i>	昆虫	アミメカゲロウ目(脈翅目)	捕食性	殺虫剤	野菜類(施設栽培)、むくげ(施設栽培)	無
ククメリスカブリダニ	<i>Amblyseius cucumeris</i>	ダニ	ダニ目	捕食性	殺虫剤	野菜類(施設栽培)、シクラメン(施設栽培)	無
スワルスキー-カブリダニ	<i>Amblyseius swirskii</i>	ダニ	ダニ目	捕食性	殺虫剤	野菜類(施設栽培)、豆類(種実)(施設栽培)、いも類(施設栽培)、果樹類(施設栽培)、花き類・観葉植物(施設栽培)	無
チリカブリダニ	<i>Phytoseiulus persimilis</i>	ダニ	ダニ目	捕食性	殺虫剤	野菜類(施設栽培)、豆類(種実)(施設栽培)、いも類(施設栽培)、果樹類(施設栽培)、花き類・観葉植物(施設栽培)	無
ミヤコカブリダニ	<i>Amblyseius californicus</i>	ダニ	ダニ目	捕食性	殺虫剤	野菜類(施設栽培)・豆類(種実)(施設栽培)、いも類(施設栽培)、花き類・観葉植物(施設栽培)、果樹類、茶	無

### 天敵農薬の写真



ハモグリミドリヒメコバチ成虫



コナジラミ幼虫に産卵中のオンシツツヤコバチ成虫



アブラムシを捕食中のヤマトクサカゲロウ幼虫



害虫となるアザミウマ幼虫を捕食中の  
アリガタシマアザミウマ成虫



アザミウマを攻撃中の  
タイリクヒメハナカメムシ成虫



アザミウマ幼虫を捕食中の  
ククメリスカブリダニ幼虫

※：全ての写真は『生物農薬+フェロモンガイドブック 2006 日本植物防疫協会』より引用

## 水産動植物の被害のおそれが極めて少ないと認められる農薬の 取扱いについて

### 1. 基本的な考え方

現行の農薬取締法テストガイドラインにおいては、水産動植物への毒性が極めて弱い又は暴露のおそれがないと一般的に考えられる種類の農薬について、水産動植物への影響に関する試験成績（魚類、ミジンコ、藻類の急性毒性試験成績）や環境中予測濃度の算定に必要な資料の提出を必要としない旨規定されている。

こうした農薬については、登録保留基準値を設定してリスク管理を行う必要性が低いものも多いものと考えられる。

このため、こうした農薬については、個別の農薬毎に、水産動植物への毒性や使用方法等から「水産動植物の被害のおそれ」を考慮し、そのおそれが極めて少ないと認められるものについては、登録保留基準値の設定を行う必要がない農薬として整理するという運用としたい。

### 2. 具体的な運用の考え方

農薬取締法テストガイドラインにおける

①「当該農薬の成分物質等の種類等からみて、その毒性がきわめて弱いこと等の理由により、安全と認められる場合」（水産動植物への毒性が極めて弱いと認められる場合）

又は

②「当該農薬の剤型、使用方法等からみて、当該農薬の成分物質等がその使用に係る農地に混入し、又は河川等の水系に流出するおそれが極めて少ないと認められる場合」（暴露のおそれが極めて少ないと認められる場合）

に該当するものとして申請がなされた農薬については、水産動植物登録保留基準設定検討会及び中央環境審議会土壌農薬部会農薬小委員会において、水産動植物への毒性や使用方法等を考慮して「水産動植物の被害のおそれが極めて少ないと認められる」との結論が得られたものについては、登録保留基準値の設定を行う必要がない農薬として整理するという運用としたい。

## 水質汚濁に係る水の利用が原因となって人畜に被害を生ずるおそれが極めて少ないと認められる農薬の取扱いについて

### 1. 基本的な考え方

現行の農薬取締法テストガイドラインにおいては、当該農薬の有効成分の種類、剤型、使用方法等からみて毒性、環境中予測濃度算定等に関する試験成績の提出を必要としない合理的な理由がある場合には、当該試験成績の提出を必要としない旨規定されている。

こうした農薬については、水質汚濁に関する登録保留基準値を設定してリスク管理を行う必要性が低いものも多いものと考えられる。

このため、こうした農薬については、個別の農薬毎に、人畜への毒性や使用方法等から「水質汚濁に係る水の利用が原因となって人畜に被害を生ずるおそれ」を考慮し、そのおそれが極めて少ないと認められるものについては、水質汚濁に関する登録保留基準値の設定を行う必要がない農薬として整理するという運用としたい。

### 2. 具体的な運用の考え方

農薬取締法テストガイドラインにおける

「当該農薬の成分物質等の種類等からみて、その毒性がきわめて弱いこと等の理由により、安全と認められる場合」（人畜への毒性がきわめて弱いと認められる場合）

又は

「当該農薬の剤型、使用方法等からみて、当該農薬の成分物質等がその使用に係る農地に混入し、又は河川等の水系に流出するおそれが極めて少ないと認められる場合」（暴露のおそれが極めて少ないと認められる場合）

に該当するものとして申請がなされた農薬については、中央環境審議会土壌農薬部会農薬小委員会において、人畜への毒性や使用方法等を考慮して「水質汚濁に係る水の利用が原因となって人畜に被害を生ずるおそれが極めて少ないと認められる」との結論が得られたものについては、水質汚濁に関する登録保留基準値の設定を行う必要が無い農薬として整理するという運用としたい。

(参考)

農薬の登録申請に係る試験成績について（平成12年11月24日付け12農産第8147号農林水産省農産園芸局長通知）（関係部分のみ抜粋）

#### 第4 試験成績の提出の除外について

第1の規定にかかわらず、別表2に掲げる場合その他当該農薬の有効成分の種類、剤型、使用方法等からみて試験成績の一部につきその提出を必要としない合理的な理由がある場合には、申請者は、当該理由を記載した書類等を当該試験成績に代えて提出することができる。

(別表2)

第4中「別表2に掲げる場合」とは、下表の左欄のそれぞれの試験成績ごとに同表の右欄に示す場合のことをいう。

試験成績	試験成績の提出を要しない場合
水産動植物への影響に関する試験成績  (1)魚類急性毒性試験成績 (注:ミジンコ類急性遊泳障害試験成績、藻類生長障害試験成績の場合も同様の規定あり。)	次に掲げる区分のいずれかに該当する場合 ① 原体での実施に関し、当該農薬の成分物質等の種類等からみて、その毒性がきわめて弱いこと等の理由により、有害でないと認められる場合 ② 製剤での実施に関し、当該農薬の剤型、使用方法等からみて、当該農薬の成分物質等が河川等の水系に流出するおそれがないと認められる場合
環境中予測濃度算定に関する試験成績	次に掲げる区分のいずれかに該当する場合又は下記左欄に掲げる(1)～(6)の試験成績について、それぞれ右欄に掲げる場合 ① 当該農薬の剤型、使用方法等からみて、当該農薬の成分物質等がその使用に係る農地に混入し、又は河川等の水系に流出するおそれがないと認められる場合 ② 当該農薬の成分物質等の種類等からみて、その毒性がきわめて弱いこと等の理由により、安全と認められる場合